



留学白書2017



東京外国語大学

Tokyo University of Foreign Studies

留学支援共同利用センター

2018.5.1

『2017 年度 留学白書』について

本『留学白書』は、東京外国語大学の留学状況をまとめたものです。2014 年度から作成を開始し、4 年目を迎えました。データの蓄積も進み、本学の状況の経年変化も可視化できてきたのではないかと思います。

本学への学生の多くは、入学前から留学の夢を抱いています。2015 年に行った調査では、新入生の 90%の学生が在学中の留学を希望していました。では、実際の学生は、その希望はどう実現しているのでしょうか？何年次に？どの大学へ？期間は？奨学金は？そうした問いへの答えが、本白書の中には詰まっています。

活発な留学状況を踏まえ、本学では、「留学 200%」（卒業するまでに 2 回留学をしよう！）という目標を提示しています。一度目の留学は短期海外留学プログラムで、二度目の留学は交換留学等の長期海外留学プログラムで、というのが基本形です。それらのプログラムを学生がどのように活用しているかを分析し、各プログラムの改善、充実を図っていくことも本署の目的のひとつです。

なお、本『2017 年度 留学白書』は 4 章から成っています。I 章から III 章が分析編、IV 章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2018 年 5 月

留学支援共同利用センター

目次

—分析編—

I. 留学の種類	4
II. 2017年度 留学状況について(概要)	8
III. 2017年度 留学状況	
1. 学部学生の留学(長期・短期総合)	12
1-1. 長期留学(学部)	16
1-2. 短期留学(学部)	26
2. 大学院生の留学	32
3. 2017年度学部卒業時点での留学状況について	34
参考: 留学をしなかった学生への調査	36
4. SGU 指標	39

—資料編—

IV. 資料篇	
1. 長期留学	43
(1) 交換留学	43
a. 2017年度帰国者(2016年度出発)	43
b. 2017年度出発者(2017年度末現在留学中)	47
c. 2017年度出発者(2017年度内帰国済み)	52
(2) 休学留学	52
a. 2017年度帰国者(2016年度出発)	52
b. 2017年度出発者(2017年度末現在留学中)	55
c. 2017年度出発者(2017年度内帰国済み)	57
(3) 自由留学	58
a. 2017年度帰国者(2016年度出発)	58
b. 2016年度出発者(2017年度末現在留学中)	60
c. 2017年度出発者(2017年度末現在留学中)	60
d. 2017年度出発者(2017年度内帰国済み)	62
(4) 長期インターンシップ	64
a. 2017年度帰国者(2016年度出発)	64
b. 2016年度出発者(2017年度末現在渡航中)	65
c. 2017年度出発者(2017年度末現在渡航中)	65
d. 2017年度出発者(2017年度内帰国済み)	65
2. 短期留学	67
(1) ショートビジット	67
(2) スタディツアー	77
(3) 短期インターンシップ	78
(4) 日本語教育インターンシップ	78
3. 大学院生の留学	79
(1) 長期留学	79
(2) 短期留学	80
4. 前年度以前の留学者のうち、2017年度に単位認定を行った学部生	81
5. その他の情報	83
(1) 2017年度トビタテ!留学 JAPAN 奨学金受給者(重複記載)	83
(2) 2017年度日本語パートナーズ派遣対象者(重複記載)	84

I. 留学の種類

一口に留学といっても、その期間や種類は様々です。本学には、以下長期留学で6つ、そして短期留学で6つのタイプの留学があります。本学では、この12のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

(1) 交換留学(学部、大学院)

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2018年1月1日現在で、63カ国・地域の151の教育機関(2017年4月1日時点:59カ国・地域、138教育機関)と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。例年、前年の10月に公募、11月に選抜、12月に決定のスケジュールをとっています。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情で、その克服が課題です。

交換留学では、留学先で学費を徴収されることはない代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2017年度出発の交換留学では203人中143人(うち3人大学院生)の派遣者が奨学金を受給しており、うち118人(うち2人大学院生)にJASSO(日本学生支援機構)海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、本学での学業成績(GPA)が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

(2) 休学留学(学部)

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行っている留学です。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が行える機関は、事前に教授会で承認されていることが必要です。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数必ずしも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

(3) 自由留学 (学部)

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

自由留学者は、大学に休学届のほか海外渡航に関する情報を提出するものの、実際の留学期間、留学先教育機関等詳細についての大学による掌握はこれまで十分には行われてきませんでした。安全で有意義な留学の実現のため、自由留学者を適切に掌握することも本学の課題です。

(4) 長期インターンシップ等(学部、大学院)

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業※大学推薦プログラム」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN 諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN 諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN 諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。

(5) 長期研究留学(大学院)

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学をするものです。単位認定はありません。コチュテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチュテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関との双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

(6) 海外フィールドワーク等(大学院)

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究を行うものです。

2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

(1) ショートビジット(学部、大学院(修士))

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学科目」に登録して履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して担当教員により単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラムの形を取っているのは、以下の7つの言語です。

全員型プログラム(ショートビジット) 専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ハノイ国家大学・人文社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	カイロ大学またはアリー・バーバー・インターナショナルセンター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	2年次冬学期

(2) スタディツアー(学部)

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」に登録して履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

■2017年度実施スタディツアー■

- ムンバイでスラムとソーシャルワークを学ぶ―「コンフリクト耐性」を培う能動
- 国連の活動とキャリア
- 「アジア太平洋地域に築く平和で包摂的な社会」―「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- Knowledge Investment Programs 研修
- ウズベキスタン・スタディツアー

(3) 短期インターンシップ(学部、大学院)

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。参加にあたっては、「グローバルビジネス講義」を履修しているものが優先されません。

■2017年度実施短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd(マレーシア)
- 矢崎(中国)投資有限公司(中国)
- PT.Toyota Motor Manufacturing Indonesia(インドネシア)
- AYANA HOTEL & SPA and RIMBA JIMBARAN by AYANA(インドネシア)
- Toyota Motor Philippines Co Ltd(フィリピン)
- 全日本空輸株式会社(ドイツ)

(4) 日本語教育インターンシップ(学部、大学院)

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。言語文化学部グローバルコミュニケーションコースや大学院の日本語教育分野で実施されています。

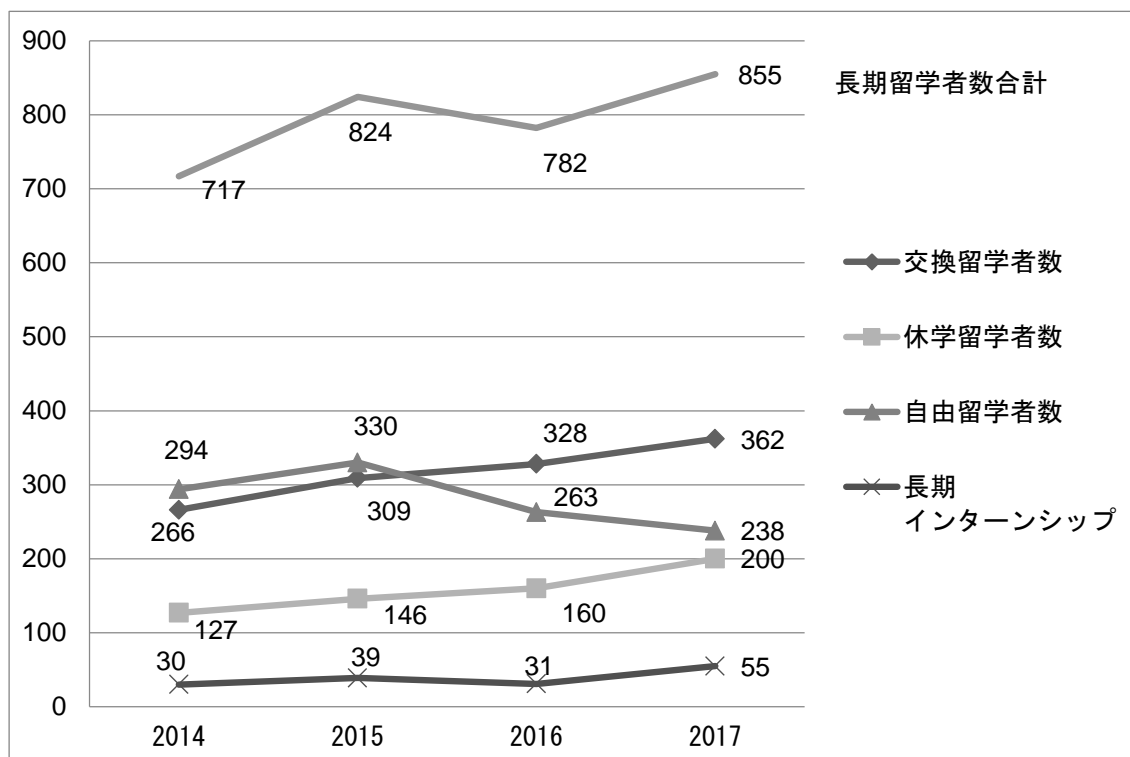
(5) Joint Education Program(JEP) (大学院)

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

Ⅱ. 2017年度 留学状況について(概要)

2017年度の本学の留学状況については、長期、短期で以下の傾向がありました。

長期留学者数



①長期留学者数合計について：過去4年間において最高人数となりました。

昨年度は治安を理由に留学を断念する学生が見られ、留学者数が減少しましたが、今年度は交換留学者を増やすため、行先である協定校を増やしたり、英語圏やフランス語圏において大学別ではなく合同での選考を行ったり、二次、三次募集を行ったことも留学者数増加の要因となっています。交換留学者の8割程度が給付型奨学金を受給しており、長期の留学を後押しする原因となっていると考えられます。

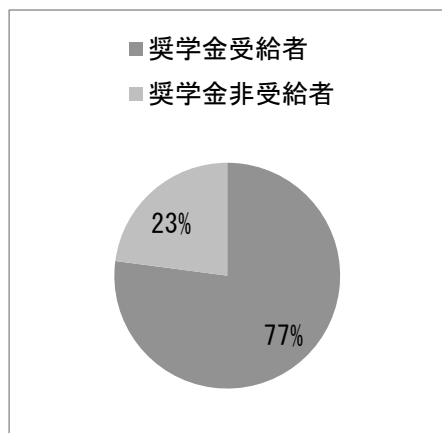
②長期留学 種類別における傾向

昨年度に引き続き、交換留学者、単位認定の申請を行う休学留学者の数が増加傾向にあり、単位認定なしの自由留学者が減少傾向にあります。これは、本学の目標に沿った傾向であるといえます。

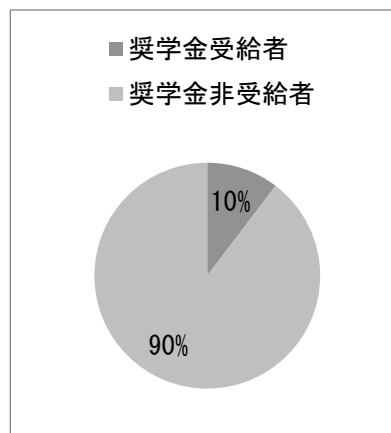
③給付型奨学金受給状況

交換留学、その他で分けた場合の受給状況は以下のとおりです。交換留学では、およそ8割の学生が何らかの奨学金を得ているのに対して、休学、自由留学等では、受給者は1割程度となっています。

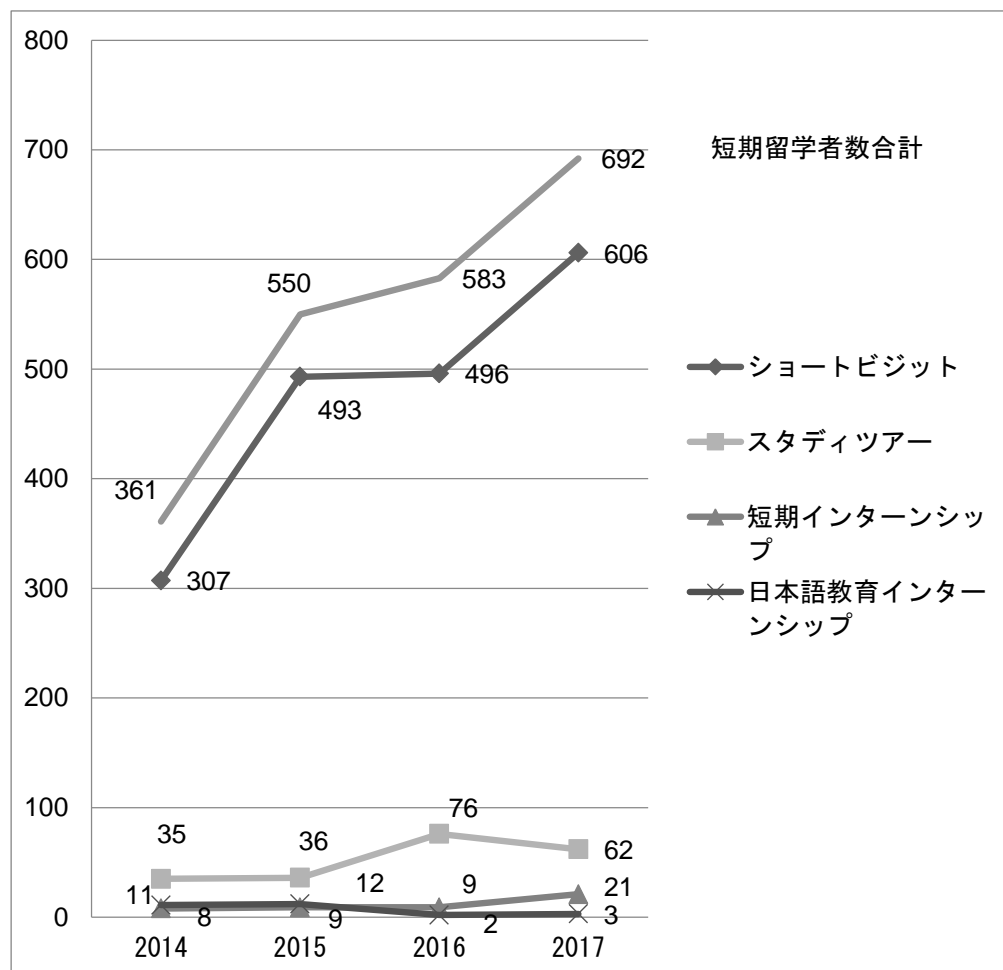
交換留学



休学・自由留学、長期インターンシップ



短期留学者数



●短期留学者数合計について：長期同様に、過去4年間に於いて最高人数となりました。

ショートビジット制度が充実、そして浸透したことが一つの要因です。今後もプログラム数を増やして学生の選択肢を広げ、説明会などによる情報提供も続けていきます。

今後も危機管理に配慮しつつ、留学学生のサポートを充実させ、安心して留学できる環境を整えていきます。

データから見える課題について

①長期留学の種類について

単位認定のない自由留学者の数が2016、2017年と減少傾向にあり、交換留学者、単位認定の申請を行う休学留学者の数が右肩上がりとなっているのは、好ましい傾向と言えます。しかし、引き続き休学留学者より自由留学者の方が多い状況であるため、自由留学者を減らして、交換留学者を増やすことは、今後も本学の課題となります。

②留学の単位認定について

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先でとった単位を本学の単位に認定する手続きをしない学生が多い点です。取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています（休学留学の場合は、休学終了後1年以内）。そのため、2017年度に留学に出発した学生の単位認定は、2018年度または2019年度に行われることになります。

2015年度に留学に出発し、2016年度に帰国した学生の単位認定状況は以下のとおりです。

2015年度出発、2016年度帰国留学者の単位認定状況

留学種類	留学者数	うち単位認定有 (2017年度末まで)	単位認定者率
交換留学	153	137	89.50%
休学留学	45	20	44.40%

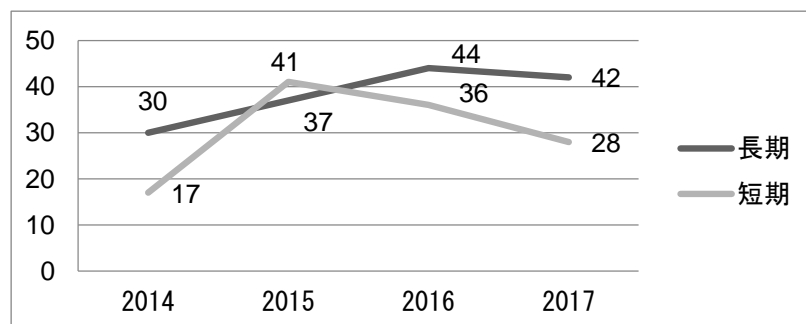
交換留学者は9割近くの学生が単位の認定を行っていますが、休学留学者の単位認定率は44.4%にとどまっています。

交換留学者の多くが単位認定を行っている理由としては、JASSO（日本学生支援機構）からの奨学金受給者が増えていることが挙げられます。JASSOの奨学金受給者は、受給要件に単位認定が含まれています。

③大学院生の留学について

大学院生の留学の数は過去4年間でほとんど伸びが見られず、2017年度は減少傾向が見られます。夏学期・冬学期の短期留学（ショートビジット）プログラム数は増えており、大学院生向けのレベルの高いプログラムも用意されています。大学院生にも積極的に参加するよう呼びかけが必要です。

2014年度から2017年度の大学院生の期間別留学者数の推移



Ⅲ. 2017年度 留学状況

1. 学部学生の留学（長期・短期総合）

①留学者総数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	692	855	1,547	3,851

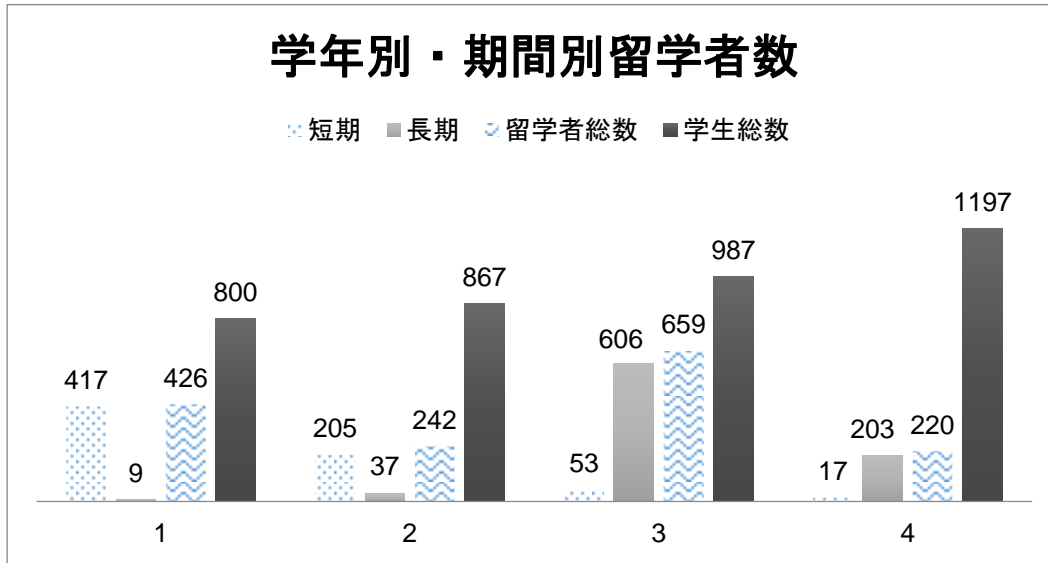
2017年度（2017年4月1日～2018年3月31日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者855人、短期留学者692人の、合計1,547人です。2016年度は合計1,365人でしたので、182人増となります。2016年度には、全学生の35%が留学を経験しましたが、2017年度には40%以上の学生が留学を経験したことになります。長期留学者数には、2016年度に留学を開始し2017年度中に帰国したものと、2017年度中に出発して帰国したもの、また2017年度中に出発して2018年3月31日現在、海外滞在中のものを含みます。

②学年別・期間別留学者数

学年	短期(人)	学生総数中の短期留学者数の割合	長期(人)	学生総数中の長期留学者数の割合	留学者総数(人)	留学者数の割合	学生総数(人)
1	417	52%	9	1%	426	53%	800
2	205	24%	37	4%	242	28%	867
3	53	5%	606	61%	659	67%	987
4	17	1%	203	17%	220	18%	1197
合計	692	18%	855	22%	1547	40%	3851

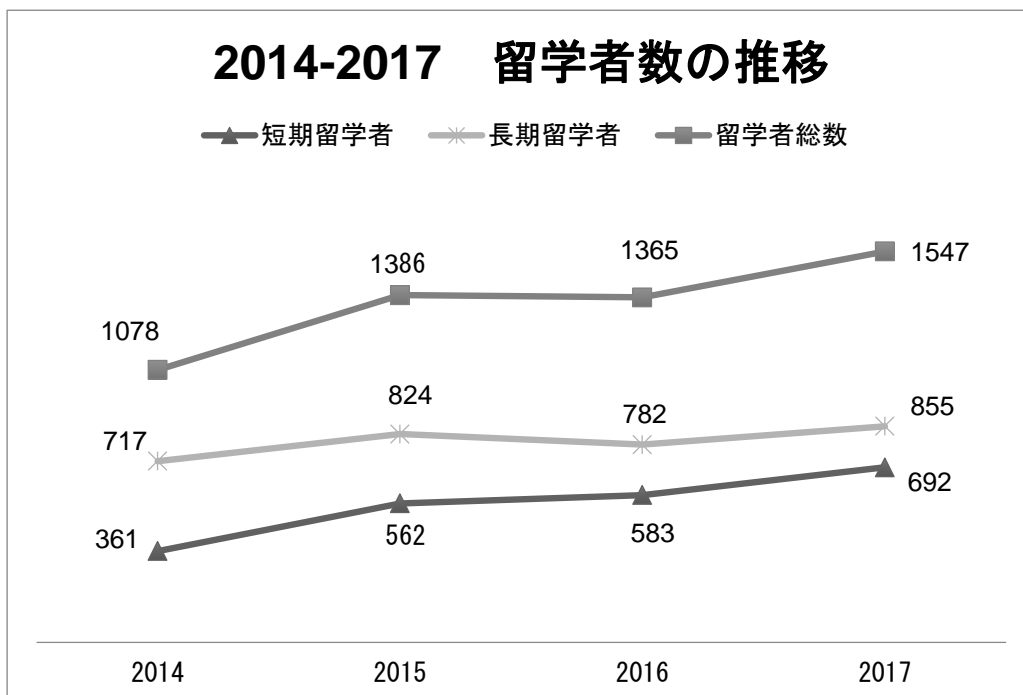
2017年度の留学者総計1547人中65人は年間に2回、2人は3回の留学をしています。このため、のべ数は1,547人、実数は1,478人です。1,478人という数値は、2017年度の学部学生総数3,851人の38%となります（昨年度比+4%）。

学年別・期間別留学者数



短期留学には1, 2年生が、長期留学には3, 4年生が多く参加していることがわかります。2017年度には、半数以上の1年生が短期留学に参加しました。

③2014年度から2017年度の期間別留学者数の推移

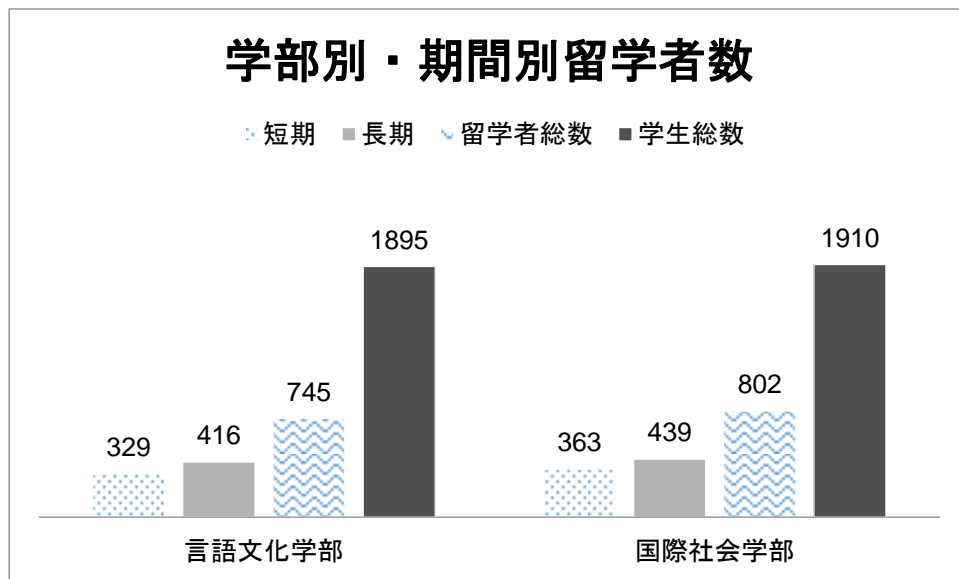


2017年度には、2014年度からの4年間で、短期留学者数、長期留学者数、留学者総数ともに過去最高を記録しました。

④学部別・期間別留学者数

学部別・期間別の分布は次のとおりです。

学部別・期間別留学者数



言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、国際社会学部の方が 50 人程度多くなっています。

⑤専攻言語別・期間別留学者数

以下のとおりとなっています。割合の欄に色がついている、アラビア語、タイ語、トルコ語、ビルマ語、ベトナム語、ペルシア語、ポーランド語、ラオス語専攻においては、5割以上の学生が2017年度中短期または長期で留学をしています。

専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語	学生総数 (2017/5/1)	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	合計	割合
アラビア語	148	38	25.7%	41	27.7%	79	53.4%
イタリア語	129	26	20.2%	29	22.5%	55	42.6%
インドネシア語	97	16	16.5%	29	29.9%	45	46.4%
ウルドゥー語	67	11	16.4%	14	20.9%	25	37.3%
カンボジア語	52	5	9.6%	12	23.1%	17	32.7%
スペイン語	333	55	16.5%	79	23.7%	134	40.2%
タイ語	79	21	26.6%	22	27.8%	43	54.4%
チェコ語	62	8	12.9%	19	30.6%	27	43.5%
ドイツ語	288	56	19.4%	59	20.5%	115	39.9%
トルコ語	72	21	29.2%	17	23.6%	38	52.8%
ビルマ語	48	10	20.8%	15	31.3%	25	52.1%
ヒンディー語	103	12	11.7%	11	10.7%	23	22.3%
フィリピン語	71	11	15.5%	19	26.8%	30	42.3%
フランス語	284	58	20.4%	67	23.6%	125	44.0%
ベトナム語	70	16	22.9%	22	31.4%	38	54.3%
ペルシア語	64	18	28.1%	19	29.7%	37	57.8%
ベンガル語	50	7	14.0%	0	0.0%	7	14.0%
ポーランド語	68	21	30.9%	21	30.9%	42	61.8%
ポルトガル語	117	16	13.7%	30	25.6%	46	39.3%
マレーシア語	58	10	17.2%	16	27.6%	26	44.8%
モンゴル語	72	10	13.9%	17	23.6%	27	37.5%
ラオス語	49	20	40.8%	10	20.4%	30	61.2%
ロシア語	309	68	22.0%	75	24.3%	143	46.3%
英語	496	70	14.1%	104	21.0%	174	35.1%
中国語	296	61	20.6%	61	20.6%	122	41.2%
朝鮮語	148	17	11.5%	32	21.6%	49	33.1%
日本語	221	10	4.5%	15	6.8%	25	11.3%
合計	3851	692	18.0%	855	22.2%	1547	40.2%

1-1. 長期留学（学部）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

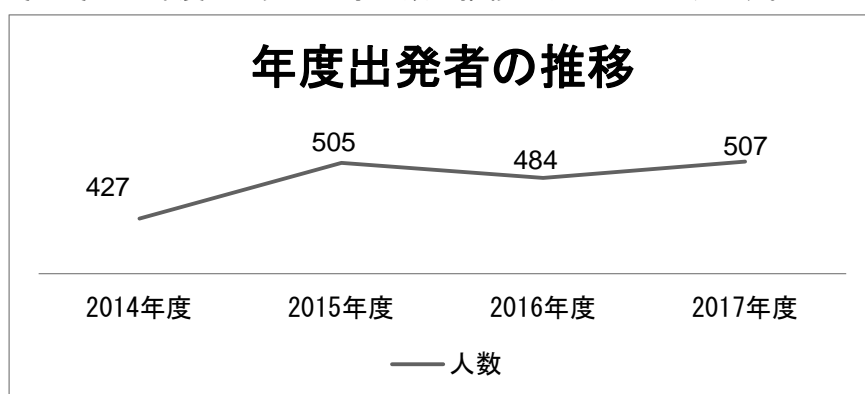
2017年度に留学を開始した学生は507人、うち交換留学学生が200人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が307人で、交換留学者が休学をしての留学者より100人ほど多くなっています。長期留学者全体の41%である348人の学生が、2016年度から留学をして2017年度に帰国、または2017年度も留学中となっています。

①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

留学種類	留学者数	2017年度出発者		2017年度より前の出発者	
		2017年度 出発	2017年度 出発・帰国	2016年度出発、 2017年度帰国	2016年度出発、 2017年度留学中
交換留学	362	198	2	162	—
休学留学	200	79	36	85	—
自由留学	238	59	91	75	13
長期 インターンシップ	55	16	26	12	1
留学者数合計	855	352	155	334	14
		507		348	

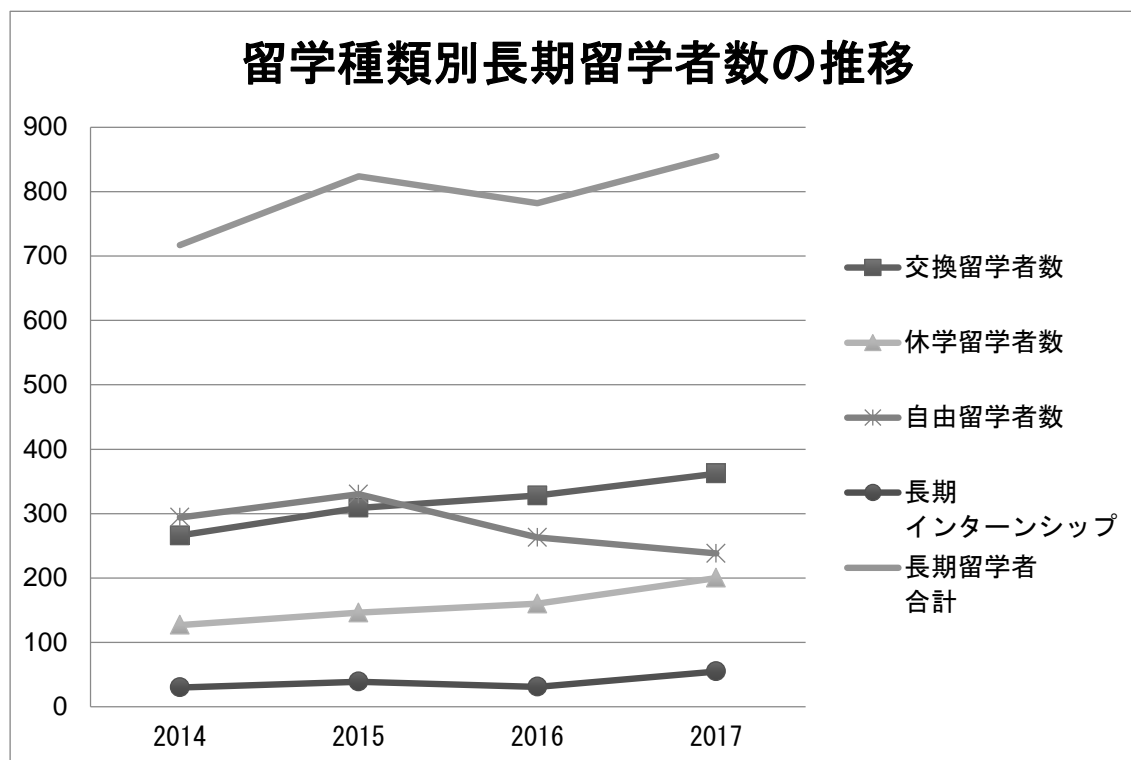
②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

それぞれの年度に出発した学生数の推移は以下のとおりです。



③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の 2014 年度からの 4 年間の推移は、以下のとおりとなっています。

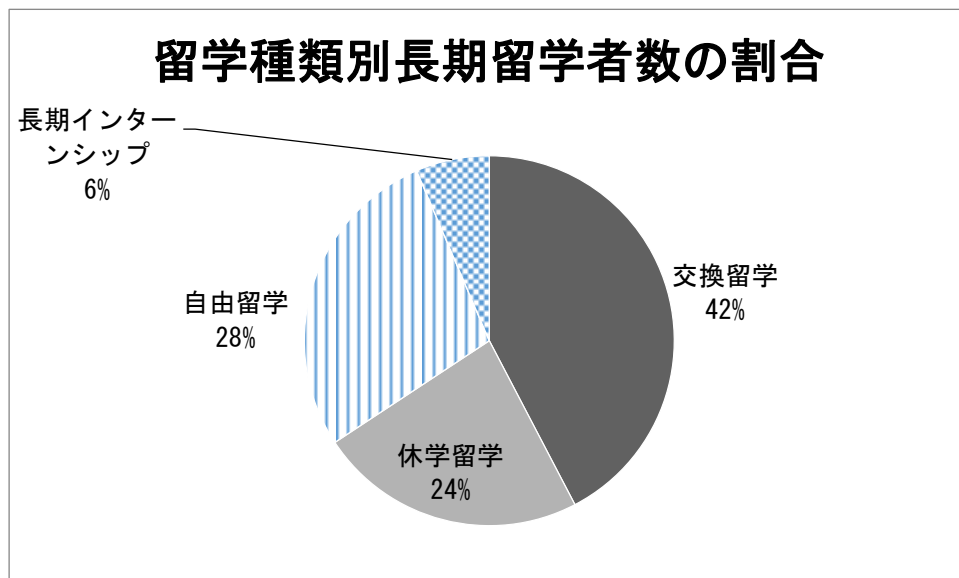


年度	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	留学者数合計
2014 年度	266	127	294	30	717
2015 年度	309	146	330	39	824
2016 年度	328	160	262	32	782
2017 年度	362	200	238	55	855

長期留学者数が過去 4 年のうち最高となりました。単位認定のない自由留学者の数が 2016、2017 年と減少傾向にあり、交換留学者、単位認定の申請を行う休学留学者の数が右肩上がりとなっているのは、好ましい傾向と言えます。しかし、引き続き休学留学者より自由留学者の方が多いため、自由留学ではなく、単位認定の有る形での留学を増やすことは、今後も本学の課題となります。

④留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。2016年度以降、交換留学の割合が一番高くなりましたが、次いで自由、休学留学と続いている傾向は変わりありません。交換留学と休学をしての留学(休学留学、自由留学、長期インターンシップ)を比較すると、依然として休学をしての留学が16%多くなっています。

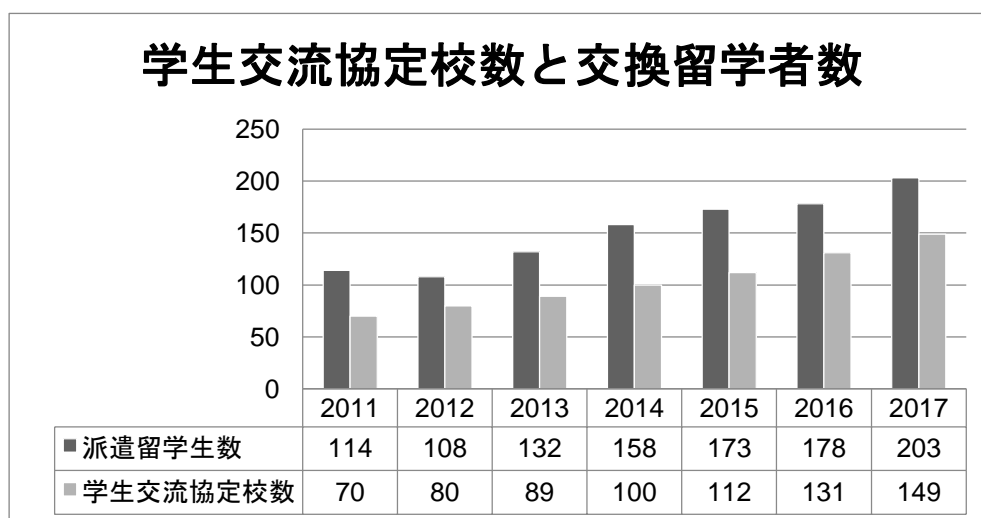


留学種類	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ
留学者数	362	200	238	55

長期留学のうち、本学がもっとも推奨するのは、「交換留学」です。休学をして留学をする場合にも、単位認定申請のできる教育機関を選び、「休学留学」をすることを勧めています。

⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移

交換留学者数が伸びている理由の一つとして、学生交流協定校数が伸びている点が挙げられます。以下に、2011年度からの学生交流協定校数と、交換留学者数を示します。学生交流協定校数が伸びるのに比例して、交換留学者数も増えていることがわかります。



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。2か国に留学している場合、最初に留学した国・地域でカウントしています。

留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先地域名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターンシップ	合計
ヨーロッパ	149	57	99	6	311
東南アジア	46	34	29	24	133
北米	24	14	49	4	91
東アジア	41	31	9	1	82
ロシア・中央アジア	41	24	4	3	72
中南米	27	9	12	4	52
中東	13	14	9		36
アフリカ	9	5	11	10	35
オセアニア	12	6	9	2	29
南アジア	0	6	7	1	14
留学者数合計	362	200	238	55	855

本学から長期留学をした学生数は、多い順にヨーロッパ、東南アジア、北米となっています。特に交換留学において、南アジア地域の留学先を確保することが課題です。2018年6月に、インドのジャワハルラーウル・ネルー大学と学生交流協定を結びましたので、今後交換留学でインドに留学をする学生が増えることが期待されます。

参考までに、JASSO(日本学生支援機構)の「平成28年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」における地域別・期間別日本人留学者数では、3か月以上の長期留学において多い順で北米、アジア、ヨーロッパとなっていますので、本学の傾向とは違いがみられます。

⑦留学先地域別長期留学者数の経年変化

地域別長期留学者数の経年変化を見てみましょう。

留学先地域名	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	合計
ヨーロッパ	287	296	294	311	1188
東南アジア	95	121	110	133	459
北米	78	94	89	91	352
東アジア	72	97	85	82	336
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	254
中南米	40	52	55	52	199
中東	28	28	24	36	116
アフリカ	13	27	28	35	103
オセアニア	22	26	24	29	101
南アジア	18	19	17	14	68
留学者数合計	717	824	780	855	3176

色のついている地域は、2014 年度からの4年間で一番留学者数が多いことを示しています。2016 年度末の留学白書では、アフリカ、中東、南アジア、オセアニアへの留学者数がさらに増えることを目標としていましたが、2017 年度、特に中東、アフリカ、オセアニアについては伸びが確認できます。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2014年度にはイギリス、アメリカ、ドイツの順、2015年度にはドイツ、アメリカ、ロシア、2016年度はイギリス、アメリカ、ドイツの順でした。2017年度はフランス、イギリス、ロシアの順に多く、ドイツ、アメリカと続きます。留学先について、2016年度は61カ国であったのに対し、2017年度は全部で65カ国と増えており、広く世界に留学している状況が明らかになっています。2か所以上に留学をしている場合は、最初に留学をした国でカウントしていません。

留学先国別・留学種類別長期留学者数

順位	国・地域名	交換留学	休学留学	自由留学	長期インターシップ ^o	合計
1	フランス	27	7	21	1	56
2	イギリス	23	12	17	1	53
3	ロシア	27	20	3	1	51
4	ドイツ	29	6	12	1	48
5	アメリカ	10	10	25	2	47
6	カナダ	14	4	24	2	44
7	スペイン	20	6	8	1	35
8	中国	8	21	4		33
9	インドネシア	4	8	7	9	28
9	韓国	17	5	5	1	28
10	イタリア	15	2	9		26
11	タイ	13	6	2	4	25
12	メキシコ	7	6	6	3	22
13	ポーランド	3	5	12		20
14	オーストラリア	5	4	8	2	19
15	フィリピン		9	8	1	18
16	ベトナム	8	4	5		17
17	チェコ	5	8	3		16
17	ブラジル	13	1	2		16
20	エジプト	7	4	4		15
20	ミャンマー	5	4	2	4	15
22	インド		6	7	1	14
22	トルコ	10	3	1		14
22	台湾	9	5			14
25	ポルトガル	7	1	4	1	13
26	ニュージーランド	7	2	1		10
26	モンゴル	5	3	1	1	10
26	スイス	9		1		10
29	ベラルーシ		7	2		9
30	マレーシア	2	3	2	1	8
30	パレスチナ	2	5	1		8
32	アイルランド	3	1	3		7

32	アルゼンチン	4	2		1	7
32	イラン	1	1	5		7
32	カンボジア	4		1	2	7
32	香港	7				7
37	シンガポール	4			2	6
37	ヨルダン		5	1		6
37	ラオス	5			1	6
37	ルワンダ			5	1	6
37	ウズベキスタン	5				5
37	コロンビア	3		2		5
43	オーストリア	3		1		4
43	オランダ	3	1			4
43	カザフスタン	4				4
46	タンザニア				3	3
46	モロッコ	1		2		3
48	カメルーン		1		1	2
48	ギリシャ			2		2
48	ケニア				2	2
48	ザンビア	1			1	2
48	タジキスタン		1		1	2
48	デンマーク			2		2
48	ノルウェー		1		1	2
48	リトアニア	1		1		2
57	ウガンダ				1	1
57	キューバ			1		1
57	クウェート			1		1
57	ネパール			1		1
57	フィジー			1		1
57	ブルガリア	1				1
57	ブルネイ	1				1
57	ペルー			1		1
57	マルタ共和国			1		1
57	南アフリカ共和国				1	1
	留学生数合計	362	200	238	55	855

留学先国・地域数合計：65

⑨長期留学生の給付型奨学金受給者数

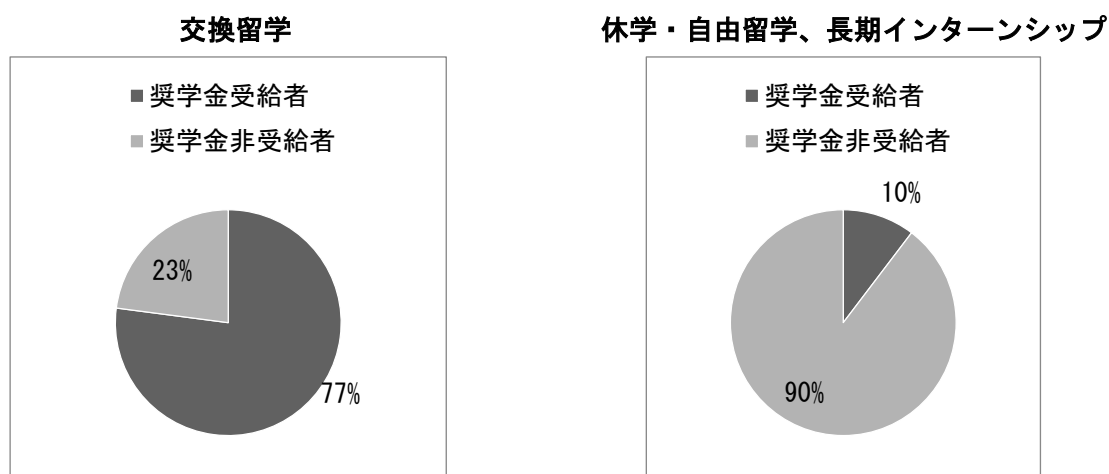
交換留学生 362 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 279 人で、77%にのびります。ほとんどが JASSO（日本学生支援機構）の奨学金ですが、トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラムや、留学先大学の奨学金など、様々な方法で支援を受けています。

2017 年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

長期留学者の奨学金受給者数

奨学金 種 類	交換留学	休学留学	自由留学	長期 インターン	合計
JASSO 海外留学支援制度	224				224
トビタテ！留学 JAPAN 奨学金	17	7	8	4	36
ポーランド政府奨学金	1	5	12		18
業務スーパージャパンドリーム財団	13	2			15
日本語パートナーズ				9	9
佐藤陽国際奨学財団	6				6
Erasmus	3				3
JASSO, BGF (フランス政府奨学金)	3				3
経団連グローバル人材奨学金	3				3
埼玉発世界行き奨学金	1	1			2
ジュネーブ大学奨学金	2				2
恵国際交流財団	2				2
「埼玉発世界行き」冠奨学金				1	1
Darmasiswa 奨学金 (インド政府奨学金)		1			1
EU 構造基金	1				1
インド政府奨学金		1			1
トビタテ、恵国際財団	1				1
みずほ国際交流財団	1				1
国際教育支援基金	1				1
受給者数合計	279	17	20	14	330
留学者数合計	362	200	238	55	855

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。



交換留学制度を利用して留学をした学生の方がはるかに受給率が高いことがわかります。ただ、交換留学以外の方法で留学をした学生の奨学金受給状況については、本学が把握できていない受給者も存在する可能性があります。交換留学以外での留学者の奨学金受給状況は、現在休学願に記入欄がありますが、届け出の後に受給が決まる場合等を考慮し、追跡して確認する対策が必要です。

留学種類別に、2017年度の奨学金の受給状況をまとめました。
(2016年度出発、2017年度出発合計)

留学種類	受給者数合計	留学者数合計	受給率
交換留学	279	362	77%
休学留学	17	200	9%
自由留学	20	238	8%
長期インターンシップ	14	55	25%
合計	330	855	39%

⑩2017年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うことになります。そのため、2017年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2018年度または2019年度に行われることとなります。

交換留学者の単位認定状況

出発・帰国年度	単位認定有	単位未認定	合計
2016年度出発、2017年度帰国	111	51	162
2017年度出発		198	198
2017年度出発、帰国	1	1	2
留学者数合計(交換留学)	112	250	362

休学留学者の単位認定状況

出発・帰国年度	単位認定有	単位未認定	合計
2016 年度出発、2017 年度帰国	39	46	85
2017 年度出発		79	79
2017 年度出発、帰国	3	33	36
留学者数合計(休学留学)	42	158	200

①2015 年度出発、2016 年度帰国者の単位認定状況

前述のとおり、単位認定については、帰国後（休学留学の場合、休学終了後）1年以内に手続きを行うこと、となっています。そのため、ここでは単位認定率をみるために、2015 年度に留学に出発し、2016 年度に帰国した学生の単位認定状況を確認していきます。

2015 年度出発、2016 年度帰国留学者の単位認定状況

留学種類	留学者数	うち単位認定有 (2017 年度末まで)	単位認定者率
交換留学	153	137	89.50%
休学留学	45	20	44.40%

交換留学者の方が休学留学者より単位認定率が高くなっています。

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先でとった単位を本学の単位に認定する手続きを進める学生が多くない点です。上記データでも、44.4%の認定率にとどまっています。

交換留学者の多くが受給している JASSO（日本学生支援機構）奨学金は、単位認定が必須となっています。交換留学者の単位認定率が高いのは、JASSO からの奨学金受給者が増えていることも要因の一つです。

【参考】

2016 年以前に出発し、2017 年度に単位認定を行った学生数は以下のとおりです。

2016 年度以前の帰国者のうち 2017 年度に単位認定を行った学生数

留学種類	単位認定者数
交換留学	51
休学留学	18
合計	69

1-2. 短期留学（学部）

学部生の短期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別短期留学者数

短期留学への参加者数を留学種類別に見てみます。

留学種類	留学者数
ショートビジット	606
スタディツアー	62
短期インターンシップ	21
日本語教育インターンシップ	3
留学者数合計	692

各学部ごとの参加者数は、以下のとおりです。

今年度のショートビジットの学部ごとの参加者は、同数となりました。

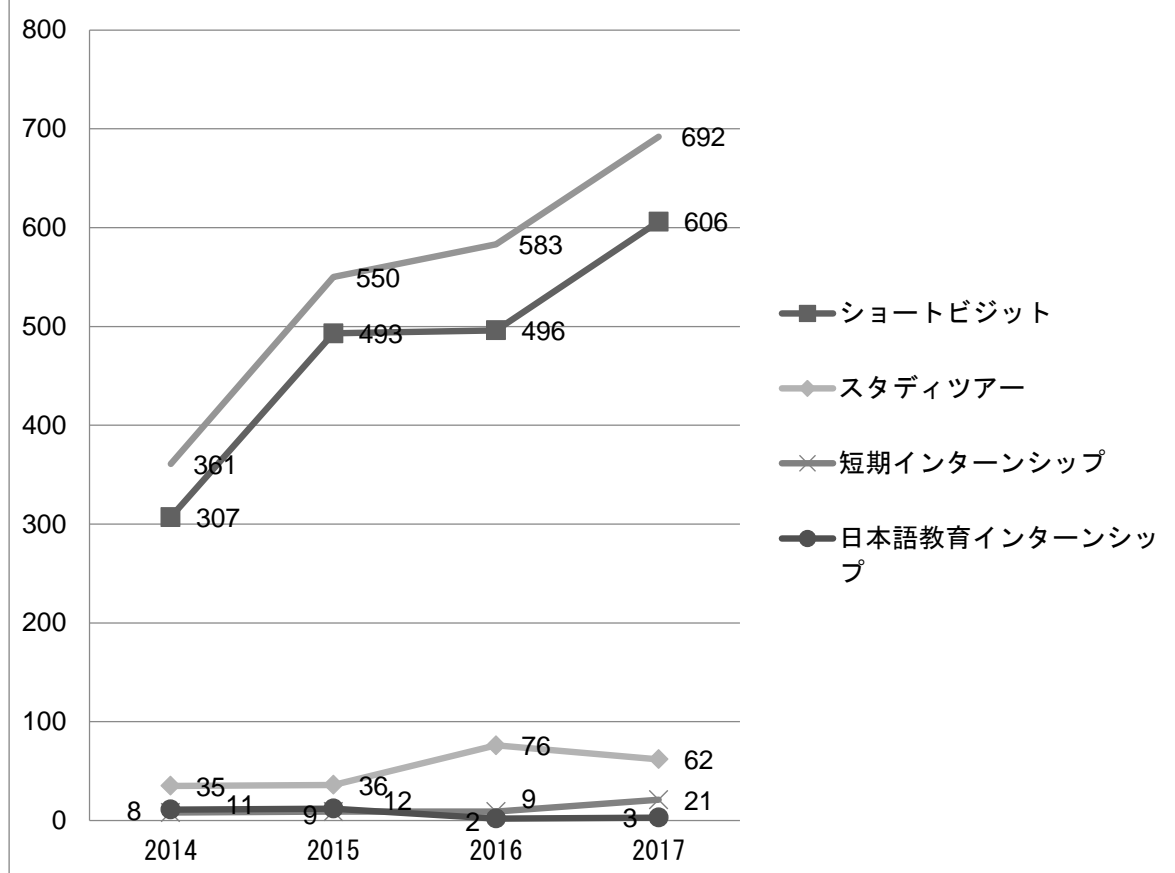
②学部別・留学種類別短期留学者数

留学種類	言語文化学部	国際社会学部	合計
ショートビジット	303	303	606
スタディツアー	13	49	62
短期インターンシップ	10	11	21
日本語教育インターンシップ	3		3
留学者数合計	329	363	692

③留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

留学種類	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	合計
ショートビジット	307	493	496	606	1902
スタディツアー	35	36	76	62	209
短期インターンシップ	8	9	9	21	47
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	28
留学者数合計	361	550	583	692	2186

留学種別別短期留学者数の推移



本学のショートビジット制度は2011年にはじまり、2014年度より、世界教養プログラム「短期海外留学科目」に再編成され、単位認定のシステムが確立されました。2015年度よりクォーター制が導入され、夏学期は7月中旬、冬学期は1月下旬からと、それまでより早い時期から留学が可能になったことや、プログラム数の増加もあり、ショートビジットについては、年々参加者が増えています。昨年度多かったスタディツアーの参加者が14人減りましたが、課題であった短期インターンシップの参加者は12人増加しています。短期インターンシップ先の開拓が進んでいることを示しています。

④留学先地域別・留学種類別短期留学者数

短期留学者を地域別・種類別にみると、多い順にヨーロッパ、北米、東南アジアとなっています。長期留学では、ヨーロッパ、東南アジア、北米の順となっていますので、2位、3位に違いがみられます。参考までに、JASSO（日本学生支援機構）の「平成28年度協定等に基づく日本人学生留学状況調査結果」における地域別、期間別日本人留学生数では、3か月未満の短期留学においては、多い順にアジア、北米、ヨーロッパとなっています。本学のアジア（東南アジア、東アジア、南アジア）留学者の合算は200人で、順序がヨーロッパ、アジア、北米となり、長期、短期ともにヨーロッパへの留学者が特に多いところに特色があると言えます。

(https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_s/2017/index.html#no3)

留学先地域別・留学種類別短期留学者数

留学先地域名	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インター ンシップ	日本語教員 インターンシップ	合計
ヨーロッパ	207		2		209
北米	84	36			120
東南アジア	95		17		112
東アジア	61	5	2	3	71
オセアニア	51				51
中東	42				42
ロシア・中央アジア	24	15			39
アフリカ	18				18
南アジア	11	6			17
中南米	13				13
留学者数合計	606	62	21	3	692

⑤留学先地域別短期留学者数の経年変化

2014年度から2017年度までの地域別短期留学者数は以下のとおりです。

留学先地域名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
ヨーロッパ	107	175	168	209
北米	65	90	106	120
東南アジア	60	84	93	112
東アジア	20	38	62	71
中南米	0	9	37	13
ロシア・中央アジア	16	25	35	39
中東	20	31	28	42
オセアニア	12	23	21	51
アフリカ	7	9	17	18
南アジア	0	9	16	17
留学者数合計	361	562	583	692

全体的に数が伸びていますが、今年度大きく減少したのは、中南米です。昨年度はリオオリンピックで通訳を行うスタディツアーに参加した学生が多くおり（24人）、今年度はこれに代わる中南米へのスタディツアーがなかったことが理由です。中南米へのショートビジットにお

いては、昨年度 13 人で今年度も 13 人と横ばいです。特に伸びが目立つのは、オセアニアです。特に冬のショートビジットでオセアニア地域に人気が集まり、新たに派遣先を増やしたこと（オーストラリア・ディーキン大学）が要因として考えられます。

⑥留学先国別・留学種類別短期留学者数

国別に短期留学者数をみると、以下のとおりです。1 位から 5 位までが英語圏ですが、世界各国、43 の国・地域に散らばっていることがわかります。

留学先国別・留学種類別短期留学者数

順位	国・地域名	ショート ビジット	スタディ ツアー	短期インタ ーンシップ	日本語教育イン ターンシップ	合計
1	アメリカ	34	36			70
2	アイルランド	64				64
3	カナダ	50				50
4	オーストラリア	29				29
5	フィリピン	26		2		28
6	ロシア	24				24
6	中国	17	5	2		24
8	オーストリア	22				22
8	ニュージーランド	22				22
8	台湾	19			3	22
11	イギリス	19				19
11	スイス	19				19
11	ドイツ	17		2		19
9	エジプト	18				18
9	タイ	18				18
10	インド	11	6			17
10	韓国	17				17
18	トルコ	16				16
19	ウズベキスタン		15			15
19	スペイン	15				15
19	ラオス	9		6		15
22	イラン	14				14
23	ベトナム	13				13
24	ポーランド	12				12
24	ヨルダン	12				12
26	インドネシア	7		4		11
27	ブルネイ	9				9
27	ミャンマー	9				9

27	メキシコ	9				9
30	イタリア	7				7
30	チェコ	7				7
30	フランス	7				7
33	ポルトガル	6				6
34	モンゴル	5				5
35	カンボジア	4				4
35	コロンビア	4				4
35	スロヴェニア	4				4
35	リトアニア	4				4
39	シンガポール			3		3
39	香港	3				3
41	ウクライナ	2				2
41	フィンランド	2				2
41	マレーシア			2		2
	留学者数合計	606	62	21	3	692

留学先国・地域数 43

⑦短期留学者の単位認定状況

短期留学者の単位の認定状況は次のとおりです。

短期留学者の単位認定状況

留学種類	単位認定有	単位認定無	合計
ショートビジット	595	11	606
スタディツアー	62		62
短期インターンシップ	2	19	21
日本語教育インターンシップ	3		3
留学者数合計	662	30	692

ショートビジットは本来単位認定がありますが、認定なしの11人については、留学には参加しましたが、在学中最後の冬学期の留学であるか、または年履修単位の制限である50単位を超える履修となるために、単位の認定がありませんでした。

⑧短期留学者の奨学金受給状況

短期留学者の奨学金の受給状況は次のとおりです。

短期留学者の奨学金受給状況

留学種類	JASSO	国際教育 支援基金	日本語パー トナーズ	奨学金なし	合計
ショートビジット	279			327	606
スタディツアー		5		57	62
短期インターンシップ ^o			6	15	21
日本語教育インターンシップ	2			1	3
留学者数合計	281	5	6	400	692

2016年度のショートビジットについては、324人がJASSO（日本学生支援機構）奨学金*支給の対象となっていました。2017年度はJASSOの奨学金制度が一部変更になり、279人に奨学金が支給されました。スタディツアーの中で、「国連の活動とキャリア」については、本学国際教育支援基金より、5人に奨学金が支給されました。日本語教育インターンシップについても、基準を満たす学生にJASSO（日本学生支援機構）からの奨学金が支給されています。

*JASSO（日本学生支援機構）奨学金：独立行政法人日本学生支援機構による海外留学支援制度（協定派遣）の奨学金で、地域によって月6万円～10万円が支給される。

2. 大学院生の留学

本学の大学院の在籍者 538 人（2017 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

大学院生の留学種類別長期留学状況

留学種類	2016 年度出発、 2017 年度帰国	2016 年度出発、 2018 年度帰国 予定	2017 年度出発	2017 年度出発、 帰国	合計
交換留学	3		1	2	6
長期インターンシップ*	3	2	5	3	13
長期研究留学	7	3	6	5	21
日本語教育インターンシップ*				2	2
留学者数合計	13	5	12	12	42
出発年度ごと合計	24		18		42

②大学院生の短期留学について

大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	留学者数
Joint Education Program	17
ショートビジット	3
日本語教育インターンシップ	8
留学者数合計	28

長期留学においては休学をして留学をする長期研究留学の人数が多くなっています。大学院生の研究留学については、単位認定の制度はありません。

短期留学では大学院生の短期の研究留学を支援する、Joint Education Program 制度（p. 6 参照）を利用して留学をする学生が多くなっています。

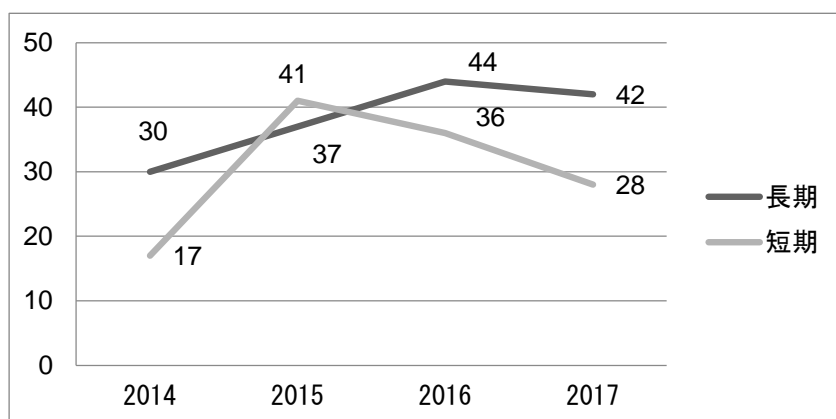
③大学院生の奨学金受給状況

短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

期間 留学種類 奨学金種類	長期				短期			合計
	交換 留学	長期研 究留学	長期イタ -ソック	日本語 教育イタ -ソック	ショー トビジ ット	日本語 教育イタ -ソック	JEP	
JASSO	5				1	1	14	21
JASSO 長期派遣		2						2
業務スーパー	1							1
国際教育支援基金						2	3	5
国際交流基金				2		5		7
日本学術振興会若手研 究者海外挑戦プログラム		1						1
日本語パートナーズ 大学推薦			1					1
奨学金なし		18	12		2			32
留学者数合計	6	21	13	2	3	8	17	70

学部生同様、長期留学では交換留学の形で留学をする学生の奨学金受給率が高く、2017年度は全員奨学金を受給して留学しています。ただ、休学をして研究目的で留学をする長期研究留学においては、JASSO（日本学生支援機構）の長期派遣制度を利用して留学をした2人以外は奨学金の受給がありません。短期留学ではほとんどの学生が奨学金を受給していますが、大学院生の長期留学への支援と支援についての情報提供を積極的に行っていく必要があります。

④2014年度から2017年度の大学院生の期間別留学者数の推移



大学院生の留学者数においては、今年度は減少傾向にあります。

3. 2017 年度学部卒業時点での留学状況について

2017 年度には、9 月に 28 人、3 月に 699 人の計 727 人の学部生が卒業しました。727 人の留学状況をまとめると以下のようになります。

留学回数	卒業者数	2 回以上 留学者数
0	226	
1	322	
2	153	179
3	23	
4	2	
5	1	
合計	727	179

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。2017 年度の統計では、留学を一度でも経験した学生は 501 人で、全体の 69%にのぼり、2 回以上経験した学生は 179 人で、全体の 24.6%となりました。

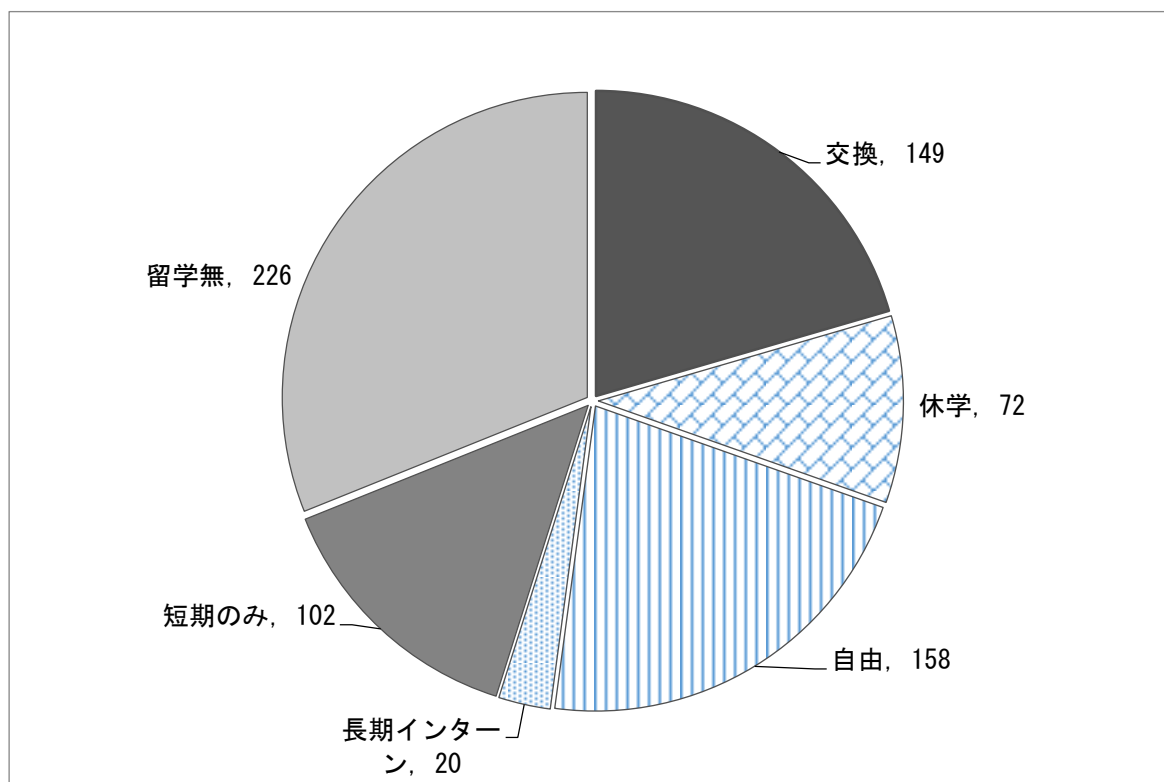
①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学 経験者数
1	322	233
2	153	143
3	23	20
4	2	2
5	1	1
合計	501	399

このデータから、留学をした学生のうち 80%は長期留学を経験しており、全体の卒業者のうち 55%の学生が長期留学を経験したことがわかります。

留学の種類ごとの数を細かくみていきます。2 回以上留学を経験している学生については、交換留学、休学留学、自由留学の順に優先してカウントしています。



留学種類	卒業生数
交換留学	149
休学留学	72
自由留学	158
長期インターン	20
短期留学のみ	102
留学無	226
合計	727

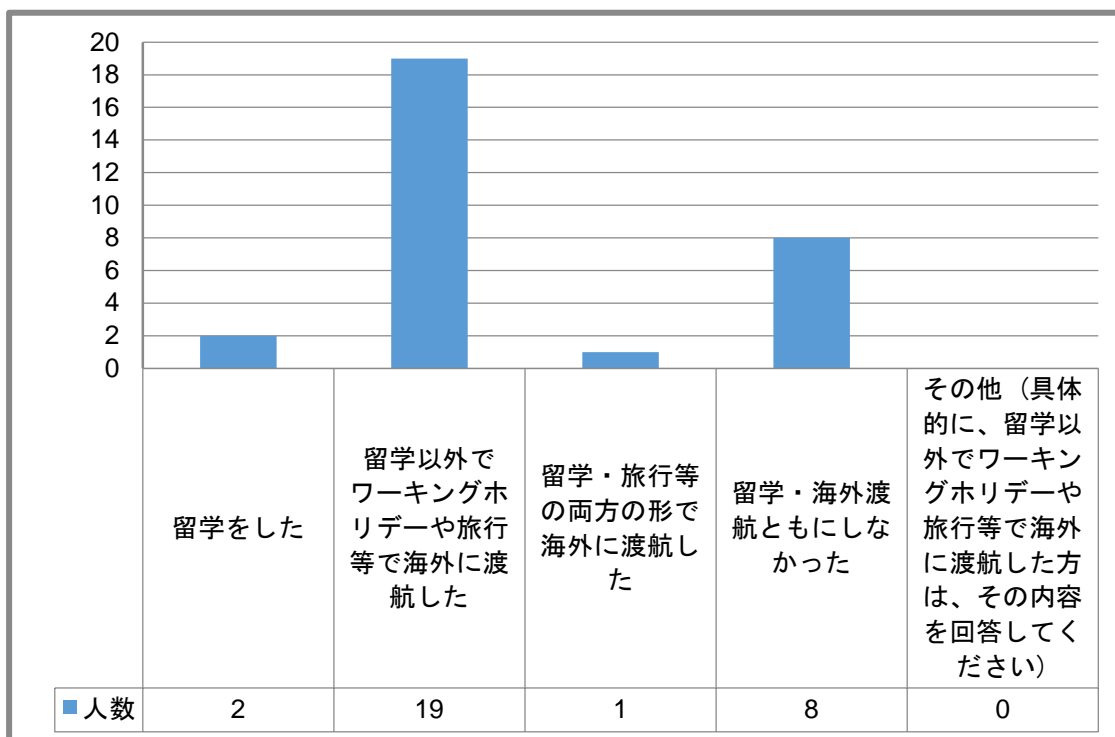
2017年度の卒業生の長期留学状況を見ると、自由留学が一番多くなっています。2014年度から2017年度までの種類別統計から推測すると、今後は交換留学、休学留学の割合が高くなる見込みです。

参考：留学をしなかった学生への調査

調査期間：2018/4/2-2018/5/2

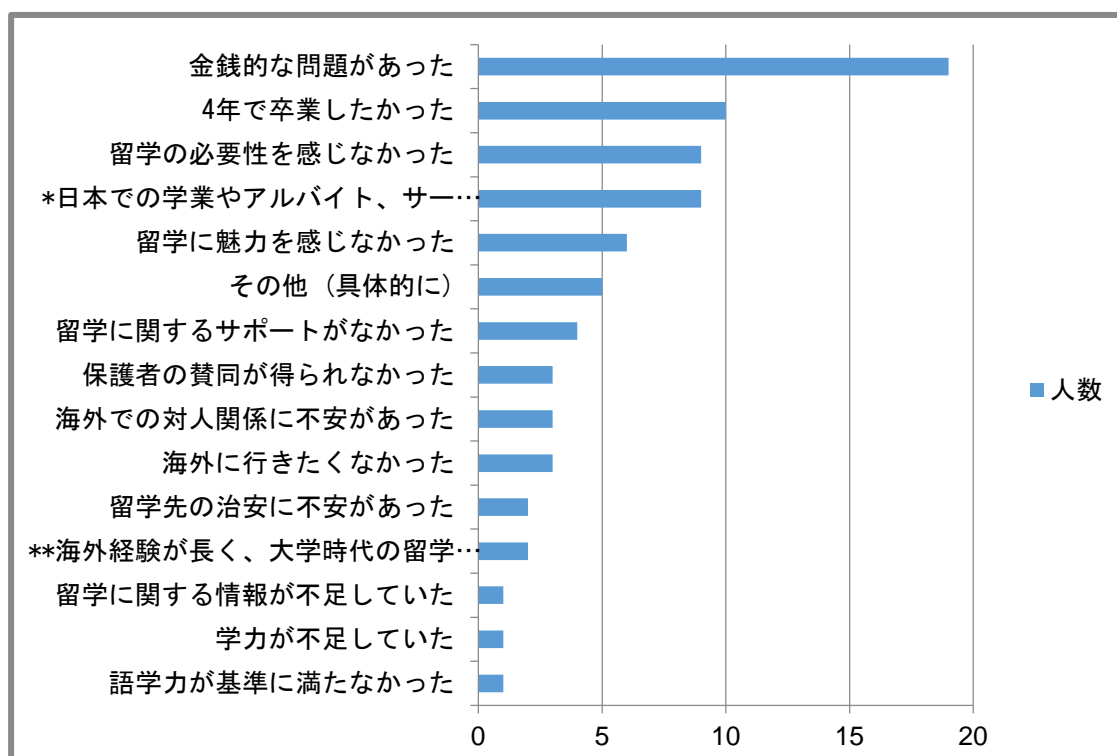
本学では入学時に9割の学生が留学を希望していますが、卒業時に、在学中一度も留学をしなかったという学生も少なからずいます。本学に留学のデータがなかった226人の学生のうち有効なメールアドレスがわかる学生182人に、アンケートを行い、30人の学生から回答を得ました。

1. 在学中留学や海外への渡航はしましたか？



上記のとおり、30人中2人の学生が留学をしており(短期海外留学)、19人の学生は海外への渡航をしていたことがわかります。また1人の学生は、留学・渡航両方を経験しています。渡航の内容は、観光旅行、ホームステイ、スタディツアーなどとなっています。本学の制度によらず個人で短期の留学をした場合、データの収集が難しいのが現状です。この対策としては、海外渡航をする場合に全学生が提出する「海外旅行届」の提出を徹底し、情報を収集していくことが挙げられます。

2. 留学をしなかった人はその理由を教えてください。



*日本での学業やアルバイト、サークルなどの活動が忙しく、留学準備・留学にかける時間がなかった

**海外経験が長く、大学時代の留学は考えなかった

一番多かったのは金銭的な問題です。長期留学に関しては、交換留学制度を利用すると奨学金が受給できる可能性も高まりますが、その他の形では奨学金を受給することが難しく、留学実現の妨げになっていると考えられます。また、交換留學生の多くが受給する JASSO 奨学金（月 6 万円～10 万円）で生活費のすべてをまかなうことは、特に欧米では難しいのが現状です。本学では交換留学先の増加や派遣できる人数の確保等、制度を充実させ、引き続き JASSO の奨学金獲得に向けて尽力し、その他の奨学金についても積極的に広報する等、留学をする学生のサポートを目指します。

また、4年で卒業をしたかったという学生も 10 人おり、長期の留学が卒業時期に影響すると考える学生がいることが確認できます。留学の時期と就職活動の時期等で無理のないスケジュール組みの支援や、交換留学の単位互換をスムーズに行う等の対策が必要です。

3. 留学先の治安に不安があった、を選択した方は、留学したかった国・地域を教えてください。

ベラルーシ、中南米地域、アメリカ合衆国、インドネシア、マレーシアが挙げられました。

留学をしなかった理由としては、その他以下のものがありました。

- 渡航中の学生サポートがなかった。
- 語学はある程度国内でも学べると考えた。日本では限界を感じるほどに深く学びたい分野があれば留学しようと考えていたが、そういった分野が見つからなかった。
- 4年で大学院に進学するつもりだった。

- 語学留学ではなく学部留学をして語学以外の専門を持ちたかった。
- 持病があり主治医の許可が得られなかった。

4. 本学の留学サポートについて、お気づきの点やご意見、またご希望などありましたらご記入ください。

- 奨学金を充実させたら、留学できる学生が増えると思う。行きたくても金銭面で行けない学生が自分も含め多く在学していた。
- 日常生活のサポート（学生相談等）と留学サポートの連携が取れておらず、学生の方も体調を崩して早めに帰国、などの例が出ている。サポートが強ければもっと渡航したかったし渡航していたと思う。遠隔での相談サポート体制などの告知をもっとするべきだと思う。
- 留学説明会にすら参加していないのでわかりません。
- 日本語教育関係の留学制度があれば嬉しいです。

資金面での問題を指摘する声が聞かれますが、給付型の奨学金について、2018 年度には、JASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度による奨学金が、2017 年度に比べ短期・長期ともに 100 名以上枠が増えています。

JASSO（日本学生支援機構）奨学金枠（人）

留学種別	2017 年度	2018 年度
交換留学	119	298
ショートビジット	230	402

危機管理については、2018 年度 4 月から、希望する学生が有料で加入できる危機管理サービスを導入しました。プラスαのサポートを希望する学生にとって有益な選択肢となることを希望しています。また、派遣先でのサポートについてあらかじめ調べ、渡航前から連絡を取っておくことも有益です。

4. SGU 指標 (2018. 5. 12 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学の SGU 構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学 200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合 文科省定義：

・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。

・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数 (A) については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数 (D) は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数 (5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性								
①日本人学生に占める留学経験者の割合								
	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度		H29年度	H31年度	H35年度
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	目標値	目標値
単位取得を伴う海外留学経験者数 (A) (人)	119	393	699	748	750	845	1084	1486
うち女性 (人)					578	607		
うち学部 (B) (人)	119	386	669	744	723	825	1070	1460
うち女性 (人)					558	593		
うち大学院 (C) (人)	0	7	30	4	27	20	14	26
うち女性 (人)					20	14		
全学生数 (D) (人)	3979	3960	4019	3998	3989	3988	3893	3830
うち女性 (人)					2589	2597		
うち学部 (E) (人)	3667	3654	3737	3662	3685	3670	3557	3494
うち女性 (人)					2427	2432		
うち大学院 (F) (人)	312	306	282	336	304	318	336	336
うち女性 (人)					162	165		
割合 (A/D) %	3.0	9.9	17.4	18.7	18.8	21.2	27.8	38.8
割合 (B/E) %	3.2	10.6	17.9	20.3	19.6	22.5	30.1	41.8
割合 (C/F) %	0	2.3	10.6	1.2	8.9	6.3	4.2	7.7

教員の指導の下、 3ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）（人）	32	23	25	38	40	41	44	52
割合（G/F）%	10.3	7.5	8.9	11.3	13.2	12.9	13.1	15.5
日本国籍を有する正規学生数（全学生数）と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。 また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。								

本学定義：

単位取得を伴う海外留学経験者数（A）について

2017年度に帰国または出発した学生について（女性）

①学部生は、単位認定をした日本国籍の交換留学（111（80））、休学留学（42（33））、ショートビジット、スタディツアー、日本語教育インターンシップ（645（462））（単位認定あり）が対象。

②これに、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える。（学部 67（49））

③ここから本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているものを差し引く。（40（31））

大学院（C）について

日本国籍の単位認定をした交換留学（2（1））、ショートビジット、JEP 日本語教育インターンシップ（21（16））

これに、前年度以前に留学し、本年度に単位認定されたものを加える。（0）

ここから本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得をしている者を差し引く。（3（3））

教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数（G）について

単位取得の有無は問わない。

交換留学、長期インターン、長期研究留学をカウント。日本語教育インターンで3か月以上留学をした学生2人をプラス（2018/5/15）

◆SGU 指標：1. 国際化関連 （2）流動性 ②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

- ・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。
- ・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注3) 日本人学生（A）の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注4) 全学生数（B・D）は学校基本調査の定義を引用（5月1日時点・非正規課程の学生を含む）。

1. 国際化関連 (2) 流動性								
②大学間協定に基づく交流数								
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度		H29 年度	H31 年度	H35 年度
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	目標値	目標値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	871	819	950	1236	1672
うち女性					612	664		
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	722	566	676	1052	1442
うち女性					444	477		
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	144	232	258	168	200
うち女性					155	180		
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	4	18	12	14	26
うち女性					12	6		
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	1	3	4	2	4
うち女性					1	1		
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4597	4721	4690	4624	4671
(うち女性)					3097	3051		
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	18.9	17.3	20.3	26.7	35.8

本学定義：

大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数：696 (494) を合計し、協定に基づき2度の留学をしている者20 (17) を差し引く

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出 (247 (174))
これに、ショートビジットで単位認定のなかった学生を加える (11 (6))

うち単位取得を伴う大学院生数

交換留学(日本国籍) (2 (1))、ショートビジット(2(1))、協定校への JEP(非協定校を除く) (11(7))の参加者数を合計し、協定に基づき2度の留学をして単位認定している者3(3)を引いた数

うち単位取得を伴わない大学院生数

単位認定が未済の交換留学生4 (1)

◆独自指標

(指標3) 留学 200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍は問わない。また、単位取得の有無は問わない。

(指標4) 本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生(休学留学の場合)については、最初に行った国でカウント。

大学独自の成果指標と達成目標								
<定量的>								
	H25年度	H26年度	H26年度	H28年度		H29年度	H31年度	H35年度
	実績値	実績値	実績値	目標値	実績値	実績値	目標値	目標値
(指標3) 留学 200% 達成者 (%)	0	1.0	11.1	20	10.9	24.8	80	90
(指標4) 本学学生の 全世界的展開 (人)	447	751	1039	970	1111	1613	1310	1740
うち北米	44	112	134	100	156	216	130	147
うち欧州	183	254	374	300	361	536	360	462
うちロシア/中央アジア	66	71	81	120	89	119	150	178
うちアフリカ	1	14	20	10	29	55	30	50
うち中近東	20	43	49	60	46	81	100	145
うち東南アジア	45	114	151	100	156	256	150	205
うち南アジア	1	21	24	40	20	32	70	113
うち東アジア	69	83	138	140	145	168	170	256
うち中南米	11	15	32	70	70	70	110	134
うちオセアニア	7	24	42	30	39	80	40	50